



だんだん

隠岐広域連合立 隠岐島前病院
<http://fish.miracle.ne.jp/dozen/>


1. はじめに

年度末をあわただしく過ごすうちに、待ち遠しく思っていた桜の花も一気に開花となり、新年度を迎える中、新たなスタートに気を引き締めています。

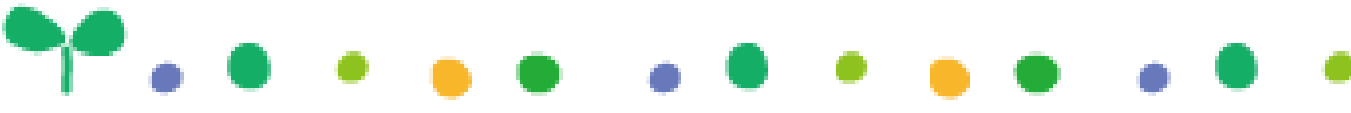
昨年度を振り返ってみますと、院長がよく言っている「島前病院は常に進化する!」という言葉どおり進化を感じた一年でした。高齢化率42.5%の当地では、外来に訪れる患者さんの多くが、膝・腰・肩の痛みを抱えています。

医師は最先端医療と言われている超音波エコーを使い、少しでも患者さんの痛みが取れるように、整形外科的治療を行っています。看護師たちは「お節介」と言われるくらい、患者さんに寄り添うことで、患者さんのお役に立てる行動を目指しています。そのことが島根県立大学看護学部との共同研究で、島前病院の看護の特徴として明らかになりました。この島前病院の看護の特徴を、守り育てることで、今後のリクルートにも繋げたいと考えています。

また、病院全体としては、認知症患者さんに有効と言われている「ユマニチュード技法」を学ぼうと研修会を開きました。この技法は「あなたは大切な存在である」というメッセージを言葉だけでなく、相手に理解できる形で伝える包括的コミュニケーションです。病院の文化にしようとして病院全体で取り組み始めています。昨年度まで一緒に取り組んだ仲間たちの活躍に心より感謝しながら、さらなる進化を目指していきたいと思えます。皆様におかれましても、これまでと同様に暖かく見守って頂きますよう、どうかよろしくお願ひ申し上げます。病院にお越しの際に、何か、お気づきの事がありましたら、いつでも気兼ねなく、声かけ下さいますようよろしくお願ひ致します。

- 
- ・・・今回の内容・・・
1. はじめに
 2. お世話になりました
 3. 新しい取り組み
 3. おわりに

看護部長 松浦 幸子



2. お世話になりました

春は別れの季節でもあります。島前病院を離れられる方々よりお別れの言葉を頂きました。

◎道野一也◎（事務）



平成27年3月31日をもって退職することになりました。

島前診療所から数えて29年間勤めてきました。

ここまで来れたのは職員の皆様の支えがあったからこそとっております。本当に感謝申し上げます。

今後は、月に何回になるか分かりませんが微力ながら臨時職員としてつとめます。

また、一患者として通院しますので今後ともよろしくお願い致します。

最後に隠岐島前病院の今後益々のご発展と皆様のご健勝を祈念しております。

長い間、ありがとうございました

◎灘貴章◎（事務）

6年間お世話になりました。ありがとうございました。



◎山本長晴先生◎



前職を定年（60歳）退職し、若いころからの念願だった隠岐での仕事を行う事ができました。離島での医療では幅広い技能がもとめられますが、力不足を痛感する日々でした。

スタッフの皆さんの温かいご支援・ご配慮にて何とか3年間やってこれました。ありがとうございました。職員の皆さんのキラリと輝く眼が

印象的でした。私は名古屋に戻り知人の診療所のお手伝いをする予定です。実家の海士に時々帰り、大自然を満喫しようと思っています。





◎遠藤健史先生◎



西ノ島に来たのが2012年3月で、来た日は吹雪でした。

吹雪が去ってみると、西ノ島はどこからでも海が見え、崖からの気持ちのいい景色が広がっており、毎週のように車や散歩で隅々まで周遊しました。


仕事としては、「総合医」、という形で島前病院に勤務していました。来た頃は、内科の業務として①生活習慣病を改善し心筋梗塞や脳梗塞の予防をすること、②胃や大腸のカメラ、エコーをして癌を見つけること、③救急車で来院される方へ対応することが仕事とっていました。

島前病院で働き、新たな二つの役割に気づきました。一つ目が寄り添うことです。病気は基本的に治療法が決まっています。ただ、薬から手術まで治療法が多数あります。時には様子を見に行くだけでも状態改善が期待できます。それらを押し付けるのではなく、患者さんとそのご家族の気持ちになって一緒に考えることが、より良い治療につながることを学びました。

もう一つは痛みをとることです。島前病院は痛む筋肉、関節など、どこにでもエコーを当てる全国有数の整形エコーに特化した病院です。私もここで初めて学び、肩や腰の痛みの多くが緩和できることを知りました。痛みをとる、動きを保つというのは、生活を維持するのにとても重要です。

これら二つの役割を学んだ後、来られた患者さんを家族と思い、全身を診ることができて始めて「総合医」と呼べるのだと思うようになりました。この学びをこれからも医師として大事にしていきたいと思います。

こうした基本的な事も学んでいなかった私を受け入れ、色々学ばせていただいた病院スタッフの皆様、住民の皆様、3年間ありがとうございました。「また、来ます！」ので、その際は声をかけていただければと思います。



◎長岡聡子◎（看護師：離島研修プログラム）



「日本一の地域医療」を体感して

学生のころから地域医療に興味があり、旅行が好きで離島に憧れて（暖かい南の島ばかりですが…）いました。

看護師として働き、「看護って何だろう？」と思っていた4年前に新聞のコラムで島前病院を知り、病院見学にやってきました。病院見学に来るまで、「隠岐」に4つの島があるということも知りませんでした。3日間の病院見学で、離島の不便さを体感し、病院スタッフの熱い思いに触れ、新鮮な気持ちになったことを覚えています。

それから3年がたち、看護師という仕事に疲れ、違う場所でリフレッシュしようと思っていたところ、縁あって島前病院での離島研修プログラムに参加することとなりました。

1年目は病棟で、さまざまな疾患に対応するむずかしさを感じていました。入院患者さんのほとんどが80歳以上の方で、耳が聞こえない患者さんと方言がわからない私の会話は、まるで海外旅行をしているようでした。

「最期は在宅で看取りをさせてあげたい」とターミナル期の患者さんを自宅へ帰すということには大変驚きました。知夫へ帰った患者さんを訪問した際にすごくいい笑顔を見せてもらい、「わがとこ」に帰る意味を感じさせてもらえました。

2年目は外来・訪問で、1年目とは全く違う業務に戸惑うことばかりでした。

外来看護師は休日、夜間は1人で対応しなければならず、訪問看護師は訪問先で判断しなければならないこともあり、どうすればよいのか困ることもたくさんありました。

「困ったときは先輩看護師に相談！」訪問から病院に戻り、どうすればよいか相談するとたくさんアドバイスをもらえました。傷の状態が悪い患者さんの状態が改善した時には、みんなで喜ぶことができました。



2年間、「島の看護師はここまでするんだ！！」と驚くことばかりでした。「愛」があふれる看護を体感することができ、「看護師になってよかった」「看護師が楽しい」と思えるようになりました。ここで学んだこと、吸収したことを、今後私が関わる方々に還元できればよいと思います。

3. 新しい取り組み —『ユマニチュード』を学んで—

「ユマニチュード」とは一言で言うと難しいですが、優しさを伝える方法、人間らしさを尊重し続ける状況、などと表現されています。遠藤先生がユマニチュードに興味を示し無理を言って看護師向けの勉強会に参加した事から始まります。

島前病院ではみんなが取り入れる事のできる技法であると確信し、病院内に浸透させるためこの委員会が発足しました。

遠藤先生のやる気が見込まれ、ユマニチュードを日本に普及する活動をしておられる本田先生と連絡を取るようになり、原案者のジネスト先生と共に2/23～3日間西ノ島に来島されました。

ジネスト先生が、ユマニチュードを使って接すると、今まで寝たきりであった患者様と目線が合い、頷いたり、発語があったり、感動の3日間でした。何といてもあのカバーオール姿がかっこよかったです。

今まで想像もできなかった患者様の生き生きとした姿を見ることができ、今までの自分のしてきた看護を反省したのと、今後どんどん取り入れていきたいと気持ちを新たにしました。

私たちにできる事、今月は「ノックしてから入ろう」を病院全体の目標として関わっています。

「コンコン」とドアやベッドをたたいたり、カーテンの外から声かけをしたり、少しずつスタッフの意識も変わってきているように思います。

夏には、再度来島頂き、具体的なユマニチュードの技法についてアドバイス頂く予定です。今からとても楽しみです。

ユマニチュード委員会 奥本 良美



4. おわりに

いつも「だんだん」をご愛読いただき、ありがとうございます。おかげさまで院内広報誌「だんだん」も15号まで刊行することができました。

新年度となり、新しいメンバーが加わっておりますので次号の「だんだん」でご紹介してゆきたいと思います。気持ちもまた新たに、さらに患者さまに寄り添った関わりができるよう、病院一同取り組んでまいります。

地域に密着した病院であるために、患者様の声は私どもの励みになります。病院へのご要望など、何かお気付きの点があれば、お気軽に声を掛けてください。次回のだんだんも乞うご期待ください！



3月11日、ひな祭り会をしました。春の歌を歌ったり、厨房さんに作ってもらった桜餅をみなさんに食べていただきました。また、シオン保育園の子どもたちが雛飾りを作ってくれました。みなさんのあたたかいご協力により、素敵な雛祭りとなりました。どうもありがとうございました(^◇^)

隠岐広域連合立 隠岐島前病院
〒684-0303
島根県隠岐郡西ノ島大字美田
2071-1
TEL 08514-7-8211
FAX 08514-7-8702
MAIL (看護部)
dz-kaigo@asahi.email.ne.jp